

引用文献

- 青柳美樹. (2016). 第 11 章 変化する社会における労働と健康 1. 生きがいと労働. 荒木田美香子, 岡本玲子, 佐伯和子, 麻原きよみ (編), 公衆衛生看護学テキスト第 4 巻 公衆衛生看護活動Ⅱ 学校保健・産業保健 (pp.133-137). 医歯薬出版.
- 独立行政法人 労働者健康安全機構. (2020). 治療と仕事の両立支援コーディネーターマニュアル. <https://www.johas.go.jp/ryoritsumodel/tabid/1047/Default.aspx>(検索日: 2022 年 1 月 21 日)
- 独立行政法人 労働者健康安全機構. (2021). 令和 2 年度 事業場における保健師・看護師の活動実態に関する調査報告書.
https://www.johas.go.jp/Portals/0/data0/sanpo/pdf/hokenshitou_katsudojittai_chosahokokusho.pdf(検索日: 2022 年 1 月 22 日)
- 北村美里, 坂本涼子, 中川美雪. (2017). 麻痺側上肢での作業活動の実践が機能回復への固執からの脱却につながった症例. 青森県作業療法研究, 25(1), 39-42.
- 厚生労働省. (2018). 平成 30 年度版厚生労働白書.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/18/backdata/index.html>(検索日: 2021 年 6 月 18 日)
- 厚生労働省. (2019). 令和元年(2019)人口動態統計月報年計(概数)の概況.
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai19/dl/gaikyouR1.pdf>(検索日: 2021 年 6 月 18 日)
- 厚生労働省. (2021). 事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン.
<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/000780068.pdf>(検索日: 2022 年 1 月 20 日)
- 牧太郎. (1998). 新聞記者で死にたい 障害は「個性」だ. 中央公論社.
- 簗原里奈, 小林祐一, 古谷佑子, 絹川千尋, 廣里治奈, 立石清一郎, ... 森晃爾. (2021). 治療と仕事の両立支援の手引きの中で産業医から主治医に提供された情報および助言内容の質的研究. 産業衛生学会誌, 63(1), 6-20.
- 小川裕由, 大西洋英, 豊田章宏. (2019). 両立支援コーディネーター基礎研修修了者の実践状況について一勤務先による比較一. 67, 294-301.
- 大神あゆみ. (2016). 第 9 章 産業における公衆衛生看護(産業保健の概要). 荒木田美香子, 岡本玲子, 佐伯和子, 麻原きよみ(編), 公衆衛生看護学テキスト第 4 巻 公衆衛生看護活動Ⅱ 学校保健・産業保健 (p.125). 医歯薬出版.

- 佐伯覚. (2006). 脳卒中後の職場復帰の予測要因. 日本職業・災害医学会会誌, 54, 119-122.
- 佐伯覚, 蜂須賀明子, 伊藤英明, 加藤徳明, 越智光宏, 松島康之. (2019). 脳卒中の復職の現状. 脳卒中, 41(5), 411-416.
- 神明由美子. (2013). 泣き虫先生奮闘記 脳梗塞に負けなかった校長先生. 文芸社.
- 豊田章宏. (2020). 脳卒中後の治療と職業生活の両立支援. 脳卒中, 41(1), 37-42.
- 豊永敏宏. (2009). 脳血管障害社における職場復帰可否の要因—Phase3 (発症1年6ヶ月後)の結果から—. 日本職業・災害医学会会誌, 57(4), 152-160.
- 豊永敏宏. (2011). 症例に見る 脳卒中の復職支援とリハシステム.
https://www.research.johas.go.jp/booklet/pdf/12_02.pdf (検索日: 2022年1月21日)
- 豊永敏宏. (2020). 治療と就労における阻害要因～脳卒中後の疲労感の特性～. 日本職業・災害医学会会誌, 68(3), 162-169.
- 上村晴世, 生田隆倫, 川上直子, 川北慎一郎. (2016). 機能改善を諦めていた左麻痺患者が作業を通して復職に至った一症例. 石川県作業療法学術雑誌, 24(1), 45-47.
- 和合恵里, 加藤美樹, 長谷川龍一. (2016). フィードバックを活用して社会的行動障害が改善した高校教師に対する復職支援. 愛知作業療法, 24, 58-63.